

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報			
ふりがな	大野幸雄		
氏名	大野幸雄		
所属	株式会社日本アプライドリサーチ研究所		
役職	主幹研究員		
活動エリア	全国		
連絡先	住所	〒	101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
	電話番号	03-5259-6380	
	メールアドレス		
キャッチコピー	ウィークエンド・ファーマーの研究員		
自己PR	<p>○フットワークの良さが一番の売り、好奇心が旺盛で自然・農業を愛しており、千葉県・佐倉に転居してから、地域の仲間2人と2反の畑で耕作を実践しています。</p> <p>○全国の市町村長が農村文明の創生を目指して活動する「一般社団法人農村文明創生日本塾」(代表理事:富山県南砺市・田中市長)の設立からボランティアベースで実務面を担当し、事務局運営に携わる。農村文明創生ツーリズムパイロットツアーを数回実施。</p> <p>○2000年～2017年まで、低アルコールの日本酒やコメ由来の成分でアトピー性皮膚炎などに効果のある「ライスパワーエキス」などの開発・普及に取組む日本酒メーカーのグループである「日本酒ライスパワー・ネットワーク」の事務局運営に携わり、酒蔵にネットワークを有する。</p>		
関連ホームページ	名称		アドレス
	株式会社日本アプライドリサーチ研究所		https://www.ari.co.jp/
	一般社団法人農村文明創生日本塾		http://nuyson-bunmei.com/
	日本酒ライスパワー・ネットワーク		https://www.facebook.com/p/%F6%97%A5%E6%9C%A3%E9%85%92%E3%93%A9%E3%82%A4%E3
2. 略歴・受賞歴			
略歴・受賞歴	<p><経歴></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆東京都出身 ◆早稲田大学法学部卒。 ◆証券会社勤務を経て、投資顧問会社の研究所において企業の技術動向等の調査に従事。 <p>その後現在の会社に入社し、地域振興、産業政策、中小企業振興分野での実態調査、作業振興計画の策定等に従事。製造業、サービス業、IT関連産業まで幅広い分野での業界知識、調査研究ネットワーク(人脈交流)を有する。</p>		
3. 取組分野			
観光	()		
● 移住・定住・関係人口	(「一般社団法人農村文明創生日本塾」(代表理事:富山県南砺市・田中市長)の設立からボランティアベースで実務面を担当し、事務局運営)		
● 農林水産業	(地域資源の活用による地域振興、産業振興)		
起業支援	()		
まちなか再生	()		
集落再生	()		
● 環境	(ゼロカーボンシティ推進支援)		
その他	()		
4. ふるさと財団での実績			
外部専門家 (活用助成)	<ul style="list-style-type: none"> ◆2011年度 静岡県掛川市「掛川・地域協働プラットフォーム構築」 ◆2008～09年度 静岡県袋井市「袋井地域産業イノベーション」 		



5. 取組内容・実績

取組内容・実績	<p>【取組事例①】</p> <p>(1)事業名 : 酒々井町ゼロカーボンシティに向けた取組支援 (2)対象地 : 千葉県 酒々井町 (3)事業目的 : 2050年のゼロカーボンシティを実現するために必要な業務の進め方を整理し、ゼロカーボンシティ実現を確かなものとするための基盤構築 (4)事業内容 : 町民・事業者・行政が一体となって進める地球温暖化対策の方針を示す「酒々井町地球温暖化対策実行計画書」に基づき、効果が高い、あるいは直近で着手していくべきものを抽出し、業務レベルまで分解して一覧化するとともに、おおよそのスケジュールまで整理したタスクリストの素案を作成 (5)事業による成果 : 木質バイオマス資源調査および事業主体可能性調査の結果を受け、酒々井町で実現可能な木質バイオマス事業の案を作成</p>
	<p>【取組事例②】</p> <p>(1)事業名 : 令和4年度酒々井町地球温暖化対策実行計画策定支援 (2)対象地 : 千葉県 酒々井町 (3)事業目的 : 酒々井町では「酒々井町 2050年脱炭素実現のための再生可能エネルギー導入目標策定事業」を実施し、本町における2050年までの脱炭素化に向けた計画を立案した。しかしながら昨年度事業で立案された計画は2050年という少し先の将来に向けた方向性を示したものであり、脱炭素社会実現に向けた具体的な行動までは示されていない。したがって、計画の実現を現実のものとするためには、より詳細な目標設定、あるいはより具体的な施策の立案が必要であり、また目標の実現に向けたPDCAの体制の構築が不可欠であると考えられる。そこで本事業は、昨年度の計画をより深化させ、詳細な目標設定・具体的な施策の立案、そしてそれらを推進する体制の構築を目的として実施 (4)事業内容 : 「地方公共団体実行計画（区域施策編）」に相当する部分として、2050年の脱炭素化に向けた貴町全体の実行計画を作成。作成にあたっては、昨年度事業で検討した、脱炭素に向けた将来ビジョン・シナリオを踏襲しながら、より詳細な計画となるよう進め、また、昨年度の検討成果も最大限活用することで、効率的に業務を進めた。 (5)事業による成果 : 「酒々井町地球温暖化対策実行計画」の策定</p>
	<p>【取組事例③】</p> <p>(1)事業名 : 第2次中央市環境基本計画・後期計画策定業務(地球温暖化対策実行計画策定含む) (2)対象地 : 山梨県 中央市 (3)事業目的 : 環境基本計画・後期計画として改定するとともに、地球温暖化対策実行計画を環境基本計画に包含する形で策定 (4)事業内容 : 中央市の環境の現況、環境指標の達成状況、及び基本施策の実施状況を踏まえ、後期計画として新たな基本目標・基本施策、評価指標の設定、基本施策の実現に向けた取組みの方向を取りまとめた。併せて、地球温暖化対策実行計画(事務事業編・区域施策編)を環境基本計画に包含する形で検討を行ない、中央市環境審議会の検討を経て、計画案を取りまとめた。 (5)事業による成果 : 第2次中央市環境基本計画・後期計画策定</p>
	<p>【取組事例④】</p> <p>(1)事業名 : 農村文明創生ツーリズム・パイロットツアーのコーディネート (2)対象地 : 宮城県 栗原市 (3)事業目的 : 農山漁村に脈々と繋がってきた伝統文化・芸能・技術を伝え残すための仕組みづくりを体験・研修する「農村文明創生ツーリズム」の創生につなげる。 (4)事業内容 : ANA総合研究所シニアアドバイザー、(公財)日本観光振興協会特別研究員の丁野 朗氏をコーディネーターに、宮城県栗原市と登米市をフィールドにして研修ツアーを開催。たくさんの自然災害と向きあい、知恵をあわせ工夫を繰り返し、地域に豊かさや多様な文化を育んできた経験を未来へ伝えるため、地域の地形・景観を教育、学術研究、観光、防災などに活用し、持続可能な地域づくりを目指している栗駒山麓ジオパークの活動について学ぶとともに、ラムサール条約湿地に登録された「伊豆沼」の畔で「農業を食業に変える」を原点に、地域の人やもの、環境の価値を見つめながら、生産から加工、販売まで、総合的に地域と関わりながら「農村産業」の構築を目指して活動している有限会社伊豆沼農産の「食農体験」の取組について体験・視察を実施。視察後、ホテルにて有識者の講演を聴き、意見交換 (5)事業による成果 : 会員だけでなく、栗原市・登米市地域との情報共有のプラットフォームが構築できた。</p>
	<p>※上記以外の取組内容・実績</p>